

体育学部体育学科

科目コード	36501		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	運動器の解剖と機能 I		担当者名	古山 喜一			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

機能解剖や運動学に関する専門的な知識を有し、スポーツ傷害を受けた競技者の競技復帰までのリハビリテーションにあたることのできる技能を持つ指導者の養成を目指している指導者の基礎となる運動器の解剖や機能概論の知識養成を図ることを目的としている。

<授業の到達目標>

ヒトの運動器が人体とどのように関わっているのか、その機能解剖や生体力学の知識は運動器に拘わらずすべてのリハビリテーションを行うにあたっての基礎であり必須であると思われる。リハビリテーションの参考になるとと思われる機能解剖と生体力学について解説する。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。Yn但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。Yn事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

財団法人日本体育協会（2011. 2. 1）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト②」

日本スポーツ協会

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	機能解剖学とは
2	体表区分	人体の区分
3	運動の表し方	基本多岐な関節運動
4	運動器の構造と機能	骨の構造
5	運動器の構造と機能	関節の九蔵と機能
6	運動器の構造と機能	靭帯の構造と機能
7	運動器の構造と機能	筋・腱の構造と機能
8	運動器の構造と機能	骨格筋の構造と機能
9	体幹の機能解剖と運動	脊柱の運動
10	体幹の機能解剖と運動	頸椎の運動
11	体幹の機能解剖と運動	胸椎の運動
12	体幹の機能解剖と運動	腰椎の運動
13	体幹の機能解剖と運動	仙椎の運動
14	体幹の機能解剖と運動	骨盤の運動
15	まとめ	総合学習

体育学部体育学科

科目コード	25103		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	発育と発達		担当者名	田中 耕作／早田 剛			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、幼少年期における身体の形態や機能が変わっていく発育と発達と老化についての基礎的知識を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

発育発達と老化の観点から、体力と運動能力、また運動発達の知識を身につける。また、その知識を（公財）日本スポーツ協会公認「ジュニア・スポーツ指導員」はじめ、体育・スポーツ指導者資格取得に繋げることを目的とする。

<授業の方法>

各テーマに沿った内容を資料やパワーポイントを用いて解説する。また、毎時間において、前時の講義内容について小テストを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における実践的な態度および小テストを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめのテスト（30%）を実施し、以上を総合的に評価する。

<教科書>

教科書は使用しないが、各単元ごとに資料を配布する。

<参考書>

- （公財）日本スポーツ協会（2019）
公認ジュニアスポーツ指導員テキスト専門科目テキスト
- （公財）日本スポーツ協会
杉原隆・河邊貴子（2014）
幼児期における運動発達と運動遊びの指導-遊びの中で子どもは育つ-
ミネルヴァ書房
- （財）健康・体力づくり事業財団（2008）
健康運動指導士養成講習会テキスト
- （財）健康・体力づくり事業財団

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	体力とは	体力と運動能力について
3	健康とは	健康に関する概念について
4	からだ（形態）の発育発達	発育発達期の身体の発達について
5	発育発達期におけるケガの実態	発育発達期に多いケガや病気について
6	発育発達期の運動プログラム	コーディネーションとは
7	動作の発達と体力測定①	幼児体力指針と新体力テスト
8	動作の発達と体力測定②	歩く・走る・跳ぶ
9	動作の発達と体力測定③	投げる・捕る・体を支える
10	運動発達の捉え方①	体力・運動能力の発達と遊びの効用
11	運動発達の捉え方②	運動発達における年齢と性差
12	運動発達の捉え方③	運動コントロール能力における年齢と性差
13	老化と生活習慣①	フレイルとは？
14	老化と生活習慣②	メタボリックシンドロームとロコモティブシンドローム
15	まとめ	全時限の講義内容のまとめ

体育学部体育学科

科目コード	36502		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	運動器の解剖と機能Ⅱ		担当者名	古山 喜一			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

機能解剖や運動学に関する専門的な知識を有し、スポーツ傷害を受けた競技者の競技復帰までのリハビリテーションにあたることのできる技能を持つ指導者の養成. を目指している指導者の基礎となる運動器の解剖や機能概論の知識養成を図ることを目的としている。

<授業の到達目標>

ヒトの運動器が人体とどのように関わっているのか、その機能解剖や生体力学の知識は運動器に拘わらずすべてのリハビリテーションを行うにあたっての基礎であり必須であると思われる。リハビリテーションの参考になるとと思われる機能解剖と生体力学について解説する。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。Yn但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。Yn事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

財団法人日本体育協会（2011. 2. 1）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト②」

日本スポーツ協会

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	上肢・下肢・体幹の機能解剖と運動
2	運動器の構造と機能	上肢帯の運動
3	運動器の構造と機能	肩関節の運動
4	運動器の構造と機能	肘関節の運動
5	運動器の構造と機能	手関節の運動
6	運動器の構造と機能	股関節の運動
7	運動器の構造と機能	膝関節の運動
8	運動器の構造と機能	足関節の運動
9	運動器の構造と機能	足趾関節の運動
10	運動器の構造と機能	手指関節の運動
11	運動器の構造と機能	上肢帯の筋・血管・神経
12	運動器の構造と機能	下肢の筋・血管・神経
13	運動器の構造と機能	頸部の筋・血管・神経
14	運動器の構造と機能	腰部の筋・血管・神経
15	まとめ	総合学習

体育学部体育学科

科目コード	36505		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	検査・測定と評価 I		担当者名	江波戸 智希			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に実技できるまでの能力を習得することをねらいとする。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

<授業の到達目標>

アスレティックトレーナーに必要とされる評価についてその意義と考え方を学び、具体的な評価による問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践できる能力が身につくようになることを目標とする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 60%（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題），最終課題・発表（最終課題，発表）40%

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」

（公財）日本スポーツ協会

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	ATに必要な評価（1）	ATによる評価の目的、意義および役割、機能評価のプロセス
3	ATに必要な評価（2）	機能評価に基づくアスレティックリハビリテーションおよびコンディショニングの目標設定、プログラム立案
4	ATに必要な検査・測定の手法（1）	姿勢・身体アライメント、筋萎縮の観察、計測の目的と意義、計測方法
5	ATに必要な検査・測定の手法（2）	関節弛緩性検査の目的と意義およびその検査測定
6	ATに必要な検査・測定の手法（3）	関節可動域測定の目的と意義および測定方法
7	ATに必要な検査・測定の手法（4）	筋タイトネスの検査測定方法
8	ATに必要な検査・測定の手法（5）	徒手筋力検査の目的と意義およびその検査方法
9	ATに必要な検査・測定の手法（6）	機器を用いた筋力、筋パワーおよび筋持久力の検査測定の目的と意義およびその検査測定方法
10	ATに必要な検査・測定の手法（7）	全身持久力の検査測定の目的と意義およびその具体的手法と測定指標
11	ATに必要な検査・測定の手法（8）	敏捷性および協調性の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
12	ATに必要な検査・測定の手法（9）	身体組成の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
13	ATに必要な検査・測定の手法（10）	一般的な体力測定の検査項目とその目的と概要
14	まとめ(1)	総合学習
15	まとめ(2)	ATに必要な検査・測定方法に関する総合討議

体育学部体育学科

科目コード	36506		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	検査・測定と評価Ⅱ		担当者名	江波戸 智希			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、評価におけるスポーツ動作の観察・分析の目的と意義、6つのスポーツ動作（歩行動作、走動作、ストップ・方向転換動作、跳躍動作、投動作、あたり動作）に関するそれぞれのバイオメカニクスおよび動作に影響をあたえる機能的と体力的要因、さらに外傷・障害の発生機転となるスポーツ動作の特徴とメカニズムについて学習する。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

<授業の到達目標>

アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となるスポーツ動作の観察・分析について、その目的と意義を理解し、6つの基本動作についてそのバイオメカニクス、動作に影響を与える機能的および体力的要因を説明できるようになることを目標とする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加）、課題レポート（適宜出される課題、最終レポート）70%

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」

（公財）日本スポーツ協会

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ動作の観察と分析(1)	評価におけるスポーツ動作の観察・分析の目的と意義
2	スポーツ動作の観察と分析(2)	歩行動作のバイオメカニクス
3	スポーツ動作の観察と分析(3)	歩行動作に影響する要因
4	スポーツ動作の観察と分析(4)	走動作のバイオメカニクス
5	スポーツ動作の観察と分析(5)	走動作に影響を与える機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような走動作の特徴とメカニズム
6	スポーツ動作の観察と分析(6)	ストップ・方向転換動作のバイオメカニクス
7	スポーツ動作の観察と分析(7)	ストップ・方向転換動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるようなストップ・方向転換動作の特徴とメカニズム
8	スポーツ動作の観察と分析(8)	跳動作のバイオメカニクス
9	スポーツ動作の観察と分析(9)	跳動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような跳動作の特徴とメカニズム
10	スポーツ動作の観察と分析(10)	投動作のバイオメカニクス
11	スポーツ動作の観察と分析(11)	投動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような投動作の特徴とメカニズム
12	スポーツ動作の観察と分析(12)	あたり動作のバイオメカニクス
13	スポーツ動作の観察と分析(13)	あたり動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるようなあたり動作の特徴とメカニズム
14	まとめ(1)	総合学習
15	まとめ(2)	スポーツ動作の観察・分析に関する総合討議

科目コード	62008		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	健康管理とスポーツ医学 [体育学部用]		担当者名	河合 洋二郎			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスリートにみられる内臓器官などの疾患では、疾患の病態、症状、対応策、処置、予防措置について理解させること。感染症に対する対応策では、スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解させること。

<授業の到達目標>

アスリートにみられる病的現象では、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する対抗策、処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶことをねらいとする。特殊環境のスポーツ医学では、高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶことをねらいとする。年齢・性別による特徴では、女性、高齢者、発育期の子供の生理的特徴、運動時に対する応答、特異的な障害について学習することをねらいとする。内科的メディカルチェックでは、メディカルチェックの意義、必要性、その内容、実施方法などについて学習することをねらいとする。ドーピングコントロールでは、アンチドーピングの目的、ドーピングの定義などをアスレティックトレーナーが理解するとともに、スポーツ選手を指導することができるようになることをねらいとする。

<授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④ 健康管理とスポーツ医学」

日本体育協会

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (1)	循環器系疾患（スポーツ心臓、不整脈、虚血性心疾患、Marfan症候群など）呼吸器系疾患（慢性肺疾患、運動誘発性喘息など）
2	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (2)	消化器系疾患（運動時の腹痛、消化管出血、下痢、急性肝炎など）血液疾患（貧血など）皮膚疾患（胼胝腫、摩擦水疱、白癬など）
3	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (3)	腎・泌尿器疾患（運動性蛋白尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿など）代謝性疾患（糖質代謝異常、脂質代謝異常、糖尿病、肥満など）
4	感染症に対する対応策 (1)	呼吸器感染症（上気道感染症、インフルエンザ、伝染性単核球症、重症急性、呼吸器症候群など）血液感染症（A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、HIV免疫不全ウイルスなど）
5	感染症に対する対応策 (2)	皮膚感染症（細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症など）ウイルス性結膜炎（咽頭結膜炎など）
6	感染症に対する対応策 (3)	海外遠征時に注意すべき感染症（SARS、マラリア、旅行者下痢症、デング熱など）各競技別ルールにみられる感染症対策
7	アスリートにみられる病的現象など (1)、小テスト	オーバートレーニング症候群・突然死・過換気症候群、小テスト
8	アスリートにみられる病的現象など (2)	摂食障害・減量障害・飲酒・喫煙の問題点
9	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (1)	（生体の反応と順応、各環境でみられる障害とその処置、予防方法など）時差（時差に対する反応と順応、時差に対する対策）
10	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (2)	海外遠征時の諸問題（健康管理、環境管理、その他）
11	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (3)	女性のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学、成長期のスポーツ医学
12	内科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの意義と必要性・対象別メディカルチェックの内容。メディカルチェックにおける検査項目
13	内科的メディカルチェック (2)	運動負荷試験の目的と方法・運動負荷試験の実際。運動負荷試験結果の判定基準。
14	ドーピングコントロール	アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類。注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項。
15	まとめ	まとめ

体育学部体育学科

科目コード	61010		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	スポーツ・レクリエーション 演習		担当者名	宮本 彩			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツを手段として活用し、心の元気づくりを行うとともに、スポーツ・レクリエーション活動による健康増進効果を図る専門の人材を養成するプログラムの一環を担う。

<授業の到達目標>

レクリエーションという言葉の主旨を理解するとともに、スポーツ未実施者をスポーツ・レクリエーション活動に誘い、スポーツ・レクリエーション活動の楽しさと効果を伝え、継続へと繋げるための理論と実践方法を身につける。

<授業の方法>

スライドと配布資料をもとに講義を展開するとともに、指導実践に向けた演習を行う。前時の講義内容の振り返りを、毎時において振り返りレポートを通じて行う。その他、グループワークを通じて本時の授業の理解を深める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における実践的な態度および振り返りレポートを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめレポート（30%）を実施し、以上を総合的に評価する。

<教科書>

(公財)日本レクリエーション協会

スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト「スポレク活動で健康寿命を延伸」

2019年

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、および授業におけるルールの確認
2	スポーツ・レクリエーション概論	スポーツ・レクリエーションとは、スポーツ・レクリエーション指導者の使命
3	スポーツ・レクリエーション生理学	日本人の生涯と高齢期の身体的特色、高齢期に訪れる危機、危機を回復する運動効果
4	スポーツ・レクリエーション心理学	高齢者の心理的特徴と運動やスポーツ・レクリエーションの心理的効果
5	スポーツ未実施者参加促進法	スポーツ未実施者参加促進法の進め方と体験会で活用できるスポレクワーク
6	スポーツ・レクリエーションの継続のための場づくり	活動の場づくりの必要性とはじめの一歩
7	スポーツ行政の仕組みと連携方法	何故、行政と連携なのか
8	動機付けの支援技術Ⅰ	信頼関係づくりの方法・ホスタビリティ、良好な集団作りの方法・アイスブレイキング、スポレクの効果を理解し意欲を高める言葉かけ
9	動機付けの支援技術Ⅱ	スポーツ未実施者を引き込む手法と楽しめる指導、対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術、継続意欲を高めるスポレク活動の展開
10	活動理解	コミュニケーションを深める展開方法とプログラム化する方法
11	安全管理の基礎	救急対応と救急体制の作り方
12	総合演習Ⅰ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その1
13	総合演習Ⅱ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その2
14	総合演習Ⅲ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その3
15	まとめ	講義内容全般における振り返り

体育学部体育学科

科目コード	38200		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保健体育科指導法Ⅰ(基礎)		担当者名	白石 翔/片桐 夏海			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、教科「保健体育」を中心とした学校体育の諸活動を対象に、その教育方法上の原理を明らかにする学問であり、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。自分の経験を振り返り、自らの思考の枠組みをくずしながら、学習指導要領をもとに、最新の保健体育科教育の方向性について理解し、『21世紀の学校体育の在り方』を探究していく。

<授業の到達目標>

1. 保健体育科の基礎的知識を習得し、学習指導要領に示された意義や目標・内容を理解することが出来る。2. 学校体育における今日的課題を整理し、これからの学校体育の在り方について考察を深め、論理的に言語化することができる。3. 積極的に事前・事後学習・レポートに取り組むことができる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・質疑応答） 2. 省察活動（まとめと振り返り） 3. 協働的活動とディスカッション 4. 資料の提示や課題の提示、提出等はGoogleclassroomで行う。また、確認テストは主にGoogleformを用いて実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト30%、期末試験60%、授業への取り組み10%で総合的に評価する。小テスト・定期試験では、保健体育科の基礎的知識や学習指導要領に示された意義や目標・内容についての理解度を評価する共に、授業中の意欲的態度、課題の遂行度を評価する。レポートは、授業内で扱われた理論を自分の中で再構築して適切に論述しているものを評価する。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）

「学校学習指導要領解説—保健体育編—」

東山書房

<参考書>

高橋健夫他（2010）

体育科教育学入門

大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方
2	保健体育科教育学で何を学ぶのか	授業の構造と教師の役割
3	保健体育とはどのような教科なのか	体育の持つ特異性と危険性
4	学校制度と保健体育科	学習指導要領の歴史的変遷と社会的背景
5	今、保健体育科に求められているもの	保健体育科の今日的課題と方向性
6	保健体育科で育みたい資質・能力	学習指導要領における保健体育科の目標の検討
7	体育の学習内容とは	運動の特性と分類
8	体育における教材と学習内容をめぐる議論	運動という文化の構成要素
9	体育のカリキュラム	年間指導計画の事例検討
10	体育の目標と内容の関係	体育の学習内容の捉え方による相違点
11	体育の授業づくりと動機づけ	自己決定論、子どもの自発性と教師の指導性
12	体育の学習形態	学習形態の類型
13	体育の学習評価	学習評価の現状と課題
14	保健体育科の内容構成	学習指導要領における分野・領域
15	まとめ	これからの保健体育授業を考える

体育学部体育学科

科目コード	38201		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用)		担当者名	白石 翔/清田 美紀/柴山 慧			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google Classroomを用いた質疑応答） 2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク） 3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む） 4. 省察活動（まとめと振り返り）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

理解度テスト 20%， レポート（含指導案） 40%， マイクロティーチング 40%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。レポートの内容については、提出後の授業でコメントし、フィードバックする。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）
中学校学習指導要領解説 保健体育編
東山書房

<参考書>

文部科学省（平成30年7月）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編
東山書房
岡出美則他（2021）
体育科教育学入門
大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方自身の体験から保健体育科の捉え方を問い直す
2	よい体育授業とは	よい体育授業の条件
3	体育授業における教材・教具とは	教材づくり・教具づくりの意義と方法
4	体育授業の学習指導	教師の4大行動（ICTの利活用を含む）
5	保健分野の教材研究	教材の選定と作成
6	保健分野の授業づくり	グループワークによる指導計画の作成（アクティブラーニングの視点を含む）
7	保健分野の授業実践	模擬授業と省察
8	体育分野の教材研究	教材の選定と作成
9	体育分野の授業づくり	グループワークによる指導計画の作成（アクティブラーニングの視点を含む）
10	体育分野の授業実践①	模擬授業と省察
11	体育分野の授業実践②	模擬授業と省察
12	指導計画とは	指導計画の意義と方法
13	指導案を読み解く	実践事例から授業設計を捉え、単元計画・単位時間計画を作成する
14	指導計画の作成	単位時間計画の作成と改善、理解度テスト
15	まとめ	よい授業に向けて保健体育教師に求められるもの

科目コード	51011		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育実習事前・事後指導(保健体育)		担当者名	早田 剛/降屋 丞/吉岡 利貢 /平田 佳弘/前川 真姫/片桐 夏海/梶谷 亮輔/白石 翔/品田 直宏/大井 理緒/坂本 康輔/伊藤 三千雄/清田 美紀/延原 まどか/十河 直太/佐々木 史之/仙波 慎平/豊里 健 /柴山 慧			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養うとともに、教育実習先で体育実技、保健の授業が円滑に出来るようになる授業実践力を身に付けることを目的とする。毎時間、各グループごとに学生が模擬授業を実施し、学習指導案、授業方法、内容等について、学生同士の相互評価や担当者からの助言をもらう。さらに実習後には、教育実習の成果を自己評価し、教職に就く者として不足している力を自覚し、大学授業で補うようにし、教職を目指す者として、資質の向上を図る。

<授業の到達目標>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養うとともに、保健体育科の教員としてよりよい実技授業、保健授業が出来るようにすることを目標にするとともに、教育実習の成果を自己評価し、教職に就く者として資質の向上を図ることを到達目標とする。

<授業の方法>

まず、教育実習の心構え、実習日誌の書き方、学習指導案の作成方法等を講義形式で学んだ後、各グループ（実習校地域別）に分かれての授業になる。各グループで、学校現場で使用されている保健体育科の教科書に沿って学生が自ら模擬授業（実技・保健）を実施し、それを担当教員が指導、グループ内学生でのディスカッション、評価を重ね、実習でよりよい授業が出来ることを目指す。実技においても保健授業においても、教材・教具・授業ノート・授業プリントの工夫が大切である。したがって、模擬授業時の映像資料提示等のICT利活用も積極的に取り

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

教育実習事前指導授業の授業態度、模擬授業評価、教育実習事後指導での教育実習報告書の作成評価、出席状況等を総合的に評価するが、教育実習校評価も重視する。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教育実習の意義と心構え (1)	教育実習の意義
2	教育実習の意義と心構え (2)	教育実習を成功させる準備と心得
3	教育実習の意義と心構え (3)	道徳・特別活動・総合学習時間の指導
4	教育実習の方法と技術 (1)	学校経営と学級経営、方針とねらい、教職員の職務と役割
5	教育実習の方法と技術 (2)	教師と生徒との人間関係、問題を持つ生徒の個別指導
6	保健体育教科の指導	学習指導のあり方、学習指導計画の意義・ねらいと立案
7	研究授業（模擬授業）の方法 (1)	中学校・高等学校に分け、また、県別に分け、模擬授業を行う
8	研究授業（模擬授業）の方法 (2)	学習指導案のねらい・内容と書き方
9	研究授業（模擬授業）の方法 (3)	教材研究のすすめ方、教科書・補助教材の扱い方、板書の工夫
10	研究授業（模擬授業）の方法 (4)	教師の言葉遣い・話し方・聞き方、机間指導・個別指導
11	研究授業（模擬授業）の方法 (5)	個別学習・グループ学習の進め方
12	研究授業（模擬授業）の方法 (6)	学習評価とその活用法
13	研究授業（模擬授業）の方法 (7)	研究授業の実際～過去の実習生の事例～
14	教育実習報告会	教育実習の反省会および報告会
15	教育実習報告書作成	教育実習記録をもとに作成

体育学部体育学科

科目コード	53012		区分	キャリア形成科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教職実践演習(中学校・高等学校)		担当者名	白石 翔/伊藤 三千雄/未定			○		
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、まず教職課程において学生各自が身につけてきた力量について履修カルテを元に検討することを通して、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを認識させることから始める。そして、その課題意識に応じた模擬授業の実践と振り返りを通して、不足している知識や技術、技能等を補い、教員としての力量形成を図る。その際、事実に基づいた振り返りとなるよう、データの収集や分析にICTを導入する。最後に、成果報告会において、教員として必要な資質能力の定着状況について確認する。

<授業の到達目標>

教育に対する使命感や情熱を持ち、さまざまな子どもに対する理解力、学級経営力、生徒指導力、学習指導力等、教育現場で必要な教育実践力を身につける。また、その力で教育現場でのさまざまな課題に対し、主体的に取り組み、解決しようとする態度を身につける。

<授業の方法>

講義（アクティブラーニングの観点から履修カルテと模擬授業で解決する課題を結びつける）、模擬授業（ICT機器を用いた撮影やデータ分析を含む）、ディスカッション（Google Classroomを用いた課題管理とレポート提出を含む）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

コメントペーパー 40%，報告会の発表内容 30%，分析レポート 15%，演習への参加と討論への参加状況 15%

<教科書>

松田恵示・鈴木聡・眞砂野裕 編（2019）

子どもが喜ぶ！ 体育授業レシピ

教育出版

<参考書>

文部科学省（2017）

中学校学習指導要領解説 保健体育編

東山書房

文部科学省（2018）

高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編

東山書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	教職実践演習受講の心構え、履修カルテの記入方法
2	履修カルテおよび教育実習の振り返り	履修者の課題意識の把握と問題設定
3	模擬授業 (1)	グループづくり，指導案検討
4	模擬授業 (1)	授業実践，グループ討論
5	模擬授業 (1)	授業実践，グループ討論
6	模擬授業 (1)	授業実践，模擬授業 (1) の分析レポート（教科指導に関連させる）
7	模擬授業 (2)	グループづくり，指導案検討
8	模擬授業 (2)	授業実践，グループ討論
9	模擬授業 (2)	授業実践，グループ討論
10	模擬授業 (2)	授業実践，模擬授業 (2) の分析レポート（生徒理解に関連させる）
11	模擬授業 (3)	グループづくり，指導案検討
12	模擬授業 (3)	授業実践，グループ討論
13	模擬授業 (3)	授業実践，グループ討論
14	模擬授業 (3)	模擬授業 (3) 授業実践，模擬授業 (3) の分析レポート（学級経営に関連させる）
15	成果報告会	今後の教育の方向、求められる教員の資質、役割、使命感

体育学部体育学科

科目コード	65047	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅠ [公務員]	担当者名	横内 浩平			○			
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな採用試験について十分理解しておく必要がある。本科目では、警察官・消防士・刑務官などの公安系公務員を目指す学生がそれぞれの職種について学び、公務員としての心構えを身につけることをねらいとする。また実際に出題される試験問題を解説し、実践力を身につけることを目的として開講する。

<授業の到達目標>

1. 公務員という仕事を知り、また採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。2. 3年次から開講される「公務員対策講座」を受講するための数学的基礎力を身に付けている。3. 採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）2. グループワーク（授業中に出される複数の解き方がある問題に関する教え合い）3. 授業で解く問題が得意な学生に対して、難易度の高い問題を準備しclassroomなどを活用して解説する。
※一部の問題についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度 15%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

資格試験研究会（2023年2月15日発行）

2024年度版 高卒程度公務員 知能分野問題集

実務教育出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	公務員という仕事の理解・計算演習（1）	公務員試験全般について学ぶ。分数の計算
3	計算演習（2）	文字式
4	計算演習（3）・職種研究（1）	連立方程式、職種研究 警察官編
5	数的処理分野（1）	速さⅠ（旅人算・通過算）
6	数的処理分野（2）・職種研究（2）	速さⅡ（流水算・時計算）・職種研究 刑務官編
7	数的処理分野（3）	割合Ⅰ（相当算・売買算）
8	数的処理分野（4）・職種研究（3）	割合Ⅱ（濃度算・仕事算）・職種研究 自衛隊編
9	数的処理分野（5）	方程式・不等式Ⅰ（和差算・過不足算）
10	数的処理分野（6）・職種研究（4）	方程式・不等式Ⅱ（分配算・年齢算・平均算）・職種研究 海上保安官編
11	数的処理分野（7）	整数（約数・倍数・記数法）
12	数的処理分野（8）・職種研究（5）	確率Ⅰ（順列・組合せ）・職種研究 事務職系
13	数的処理分野（9）	確率Ⅱ（場合の数・確率）
14	数的処理分野（10）・職種研究（6）	規則性（数列・規則性の発見・計算パズル） 職種研究 その他の職種
15	まとめ	重要事項の確認・試験の注意など

体育学部体育学科

科目コード	38401		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	武道指導論 [剣道]		担当者名	平田 佳弘			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、武道（柔道・剣道）の実践者・指導者としての専門性を高めることである。柔道・剣道は、日本古来の伝統文化であり、それぞれ柔術・剣術から生まれ、戦う方法であった柔術・剣術を、嘉納治五郎（柔）や内藤高治・高野佐三郎ら（剣）が、単に技術を身につけるだけにとどまらず、その練習を通して、人の生き方・生きる道を示し、人間形成を目指すものに昇華させたのである。武道の専門家として、武道実践する心構え、武道の本質、歴史、あるべき姿、武道教育の役割について学び、学修成果として、それを実践できる、論じ合える、追求

<授業の到達目標>

1. 武道（柔道・剣道）の理念、歴史や特性、礼法の重要性を学び、武道とは何か、また現代における武道のあるべき姿をディスカッションすることが出来る。
2. 武道の専門家として、自分の課題を発見し、意識して課題に取り組むことができる。
3. 武道教育の役割についてその重要性を学び、武道理論を持った指導者として指導・実践できる力を身に付ける。

<授業の方法>

1. 前回の復習（小テスト、口頭諮問）
2. 今回の内容説明（講義、ワークシート）
3. 今回の内容についての意見交換及びディスカッション
4. 事後課題に取り組む※柔道専門の選択者は柔道実技（形）、剣道専門の選択者は剣道実技（形）を数時間実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート50%、実技試験（柔道、剣道）20%

<教科書>

特になし

<参考書>

宮本武蔵（神子侃 訳）1982

五輪書

徳間書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	武道とは何か、武道教育はなぜ必要か（武道教育のはたす役割）等、武道指導論で取り扱う内容について説明し、授業の進め方、ルール（遅刻、欠席、公欠等）について確認する。
2	柔道の歴史	柔道の歴史について学ぶ
3	柔道の国際化①	柔道は何故世界に受け入れられたか
4	柔道の国際化②	海外における柔道指導の現状と問題点
5	柔道の指導法①	現代社会が求める柔道指導者とは
6	柔道の指導法②	中学校における教科体育の柔道指導の在り方
7	柔道の指導法③	高等学校における教科教育の柔道指導の在り方
8	柔道の指導法④	柔道の競技化と強化策
9	剣道の歴史	剣道の歴史について学習する。（平安時代～現代）
10	剣道の目的、剣道理念	全日本剣道連盟が定める、剣道の目的、剣道理念について学習する。
11	学校現場（中学校・高等学校）における剣道授業、剣道部活動指導	中学校・高等学校学習指導要領保健体育編を参考に進める。
12	宮本武蔵著「五輪書」（1）	「五輪書」の「序の巻」、「地の巻」について学習する。
13	宮本武蔵著、「五輪書」（2）	「五輪書」の「水の巻」、「火の巻」について学習する。
14	宮本武蔵著「五輪書」（3）	「五輪書」の「風の巻」、「空の巻」について学習する。
15	武道指導の総括	これまでの授業の総括として、日本の伝統文化としての武道とは何か、武道教育の役割とは何かについて議論する。

科目コード	65019		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	公務員と法		担当者名	宮園 司史			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

良好な治安を確保し、国民の生命、身体及び財産を守ることは、国の基本的な責務であるが、現在、我が国の治安は、サイバー犯罪・サイバー攻撃、国際テロ、組織犯罪といった重大な脅威に直面している。本科目では、このような責務の遂行に当たっている公安系公務員の業務を詳しく紹介するとともに、警察幹部としての経験談を交えながら、我が国の安全・安心の現状や課題、警察等における各種取組等について、幅広く取り扱い、我が国のセキュリティに関する理解と認識を醸成する。

<授業の到達目標>

公安系公務員の業務や我が国のセキュリティに関する基本的な知識を身につけるとともに、「世界一安全な日本」を実現するための各種取組についての理解を深めることを目標とする。

<授業の方法>

「集中講義」方式により授業を実施する。具体的には、毎回、各テーマに沿った内容について、パワーポイント等を使用して分かりやすく説明した動画を教材として配信するとともに、それぞれの授業に関して出題する課題への回答・提出を求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加状況・態度 50%、授業内レポート50%により、総合的に評価する（特に、受講態度については厳正にチェックする）。なお、規定以上の欠席回数がある場合および代筆レポートの提出その他受講態度に問題がある場合には、一切、単位を認めないので、注意すること。＼n

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	警察の任務と活動（その1）	警察の任務及び活動について、その概要を説明する。
2	警察の任務と活動（その2）	警察の任務及び活動について、その概要を説明する。
3	消防の任務と活動（その1）	消防の任務及び活動について、その概要を説明する。
4	消防の任務と活動（その2）	消防の任務及び活動について、その概要を説明する。
5	自衛隊の任務と活動（その1）	自衛隊の任務及び活動について、その概要を説明する。
6	自衛隊の任務と活動（その2）	自衛隊の任務及び活動について、その概要を説明する。
7	海上保安庁の任務と活動（その1）	海上保安庁の任務及び活動について、その概要を説明する。
8	海上保安庁の任務と活動（その2）	海上保安庁の任務及び活動について、その概要を説明する。
9	国民生活の安全確保（その1）	女性・子供の安全確保に向けた各種の取組や、昨今大きな社会問題となっている特殊詐欺の現状とその対策等について説明する。
10	国民生活の安全確保（その2）	地域住民の安全確保に向けた各種の取組や、犯罪を抑止するために進められている諸対策等について説明する。
11	犯罪情勢と捜査活動（その1）	我が国における犯罪の発生状況や検挙状況等を通じて、昨今の犯罪情勢の特徴、傾向等について説明する。
12	犯罪情勢と捜査活動（その2）	昨今の犯罪情勢に的確に対処するための課題や捜査活動の取組の現状等について説明する。
13	サイバー空間の安全確保	サイバー犯罪やサイバーテロ、サイバーインテリジェンス等、サイバー空間における各種の脅威の現状について説明する。
14	薬物犯罪を巡る動向と対策	覚せい剤等の薬物犯罪を巡る昨今の動向とその根絶に向けた対策の現状等について説明する。
15	総括・安全安心の現状	全体の講義を総括するとともに、我が国の安全・安心を脅かしている各種の治安事象や将来の見通し等について説明する。

科目コード	40101		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バスケットボールⅠ(基礎)		担当者名	中川 和之			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間とともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。

<授業の到達目標>

1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことができる。¥n2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することができる。¥n3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

<授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストラーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%（個人+集団）、実技40%（平常スキル+スキルテスト）、知識レポート10%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	バスケットボールの成立ち、基本技術の習得（1）	バスケットボールの歴史や競技特性について解説、ボールハンドリング技術、ドリブル技術の練習
3	ルールやコート の名称・基礎技術の習得（2）	バスケットボール競技のルールやコート の名称を知る。パス&キャッチ技術の練習
4	基本技術の習得（3）	バスケットボール競技のルールやコート の名称を知る。パス&キャッチ技術の練習
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習②
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習③
7	基本技術の習得（6）	ディフェンス技術の練習
8	応用技術の習得（1）	2対1等の攻防（ハーフコート）
9	応用技術の習得（2）	3対2等の攻防（ハーフコート）
10	集団戦術（1）	2対2、3対3の練習（ハーフコート）
11	集団戦術（2）	2対2、3対3の練習（オールコート）
12	リーグ戦（1）	習得した個人技術や集団戦術を用いて試合を行う
13	リーグ戦（2）	習得した個人技術や集団戦術を用いて試合を行う
14	リーグ戦（3）	習得した個人技術や集団戦術を用いて試合を行う
15	まとめ	スキルテスト

科目コード	40102		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バレーボール I (基礎)		担当者名	清田 美紀			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームから高度なコンビネーションプレーまで、プレーする人の能力に応じた多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは同じ人が続けて2度以上ボールに触れてはいけないという構造的な特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な個人技術、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な個人技能を高め、ゲームにおける相互の連携プレーを成功させることにより、仲間と喜びを分かち合うバレーボールの持つ本質的な楽しさを味わえるようにする

<授業の到達目標>

パスやトス、スパイクの基本的な技能を習得させ、実情に応じて、ルールを工夫したゲーム形式が展開出来ることを目標とする

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや技術理論の理解や課題解決に向けた話し合いを取り入れながら授業を進めていく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業への参加態度 60%、実技 20%、話し合いの際の発言内容20%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業内容の説明と導入（バレーボールの特性）	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	ウォーミングアップとクーリングダウン	方法の理解と実践
4	基礎技術について（1）	スパイク及びブロック
5	基礎技術について（2）	レシーブ、セット、サーブ
6	基礎技術の複合練習（1）	移動パス及びペッパー
7	基礎技術の複合練習（2）	ハイセット及び三段攻撃
8	基礎技術のまとめ（1）	複合練習と実技テスト
9	基礎技術のまとめ（2）	複合練習と実技テスト
10	競技規則と審判法	審判トレーニング
11	試合形式（1）	リーグ戦及び審判トレーニング
12	試合形式（2）	リーグ戦及び審判トレーニング
13	試合形式（3）	リーグ戦及び審判トレーニング
14	試合形式（4）	リーグ戦及び審判トレーニング
15	まとめ	総合的レポート

体育学部体育学科

科目コード	40119		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ラグビー		担当者名	小村 淳			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ラグビーとは、2つのチームが競技規則及びスポーツ精神に則り、ボールを持って走り、パス、キックを使いグラウディングして、できる限り得点を多くあげたチームがその試合の勝者となる。試合を行う為の基本スキルを実技として行う。

<授業の到達目標>

基本スキルのランニング、ハンドリング、キック、コンタクト、ユニット（スクラム/ラインアウト/キックオフ）から指導し、ルールに基づきボールゲーム形式でラグビーを理解させることを目的とする。

<授業の方法>

実技学習では、グループに分かれてスキルごとにフォーカスポイントを伝え実施する。ルールやゲーム理解については講義や映像での説明を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（積極性・協調性・相互促進性など）30%、基本スキルの評価40%、応用スキル30%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業内容説明	ラグビー競技の説明、授業計画説明、注意事項説明
2	個人技能 (1)	ランニングスキル、ハンドリングスキル
3	個人技能 (2)	ランニング、ハンドリング応用スキル
4	ボールゲーム	ルールの説明と実施
5	個人技能 (3)	キックと個人技能 (1) (2) のレビュー
6	個人技能 (4)	キック応用、コンタクトスキル
7	キッキングゲーム	ルール説明と実施
8	ゲーム	ボール&キッキング
9	集団技能 (1)	スクラムの説明と実施
10	集団技能 (2)	ラインアウトの説明と実施
11	集団技能 (3)	キックオフ、ドロップアウトの説明と実施
12	集団技能 (4)	スクラム、ラインアウト、キックオフ応用
13	ゲーム (1)	ルール説明と実施
14	ゲーム (2)	ルール説明と実施
15	まとめ	ラグビー競技の理解と映像での試合観戦

体育学部体育学科

科目コード	40120		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	サッカー		担当者名	降屋 丞			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ルールも非常に単純で、ボールとゴールさえあればできるスポーツである。しかし、主に足でボールを扱うことから経験者と未経験者との技術の差が大きく表れるスポーツでもある。この授業では、ボールを扱う技術を高める練習法を学び、技術を高め、ゲームを楽しめるようにする。そして、サッカーというスポーツに対する理解を深める。

<授業の到達目標>

サッカーの技術を習得する練習・指導法を学び、自らも技術を上達させる。特にリフティングが30回できるようにする。また、戦術面の練習も行い、サッカーへの理解を深める。そして、ゲームの中でルールも学び、サッカーのゲームを楽しめるようにする。

<授業の方法>

幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。℥履修上限60名

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技テスト 50%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・アンケート
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ
3	基礎技術のトレーニング(2)	ドリブル
4	基礎技術のトレーニング(3)	各種キック
5	基礎技術のトレーニング(4)	パス、トラップ
6	応用技術のトレーニング(1)	ターン、ボールキープ
7	応用技術のトレーニング(2)	フェイント
8	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
9	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
10	個人戦術	1対1
11	グループ戦術(1)	2対1、2対2
12	グループ戦術(2)	3対2、3対3
13	グループ戦術(3)	4対4
14	リーグ戦	リーグ戦の進め方
15	トーナメント戦	トーナメント戦の進め方

体育学部体育学科

科目コード	40121		区分	体育実技			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ソフトボール		担当者名	山本 清人			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

<授業の到達目標>

- (1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃，安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 球技に主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとする事，合意形成に貢献しようとする事，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事，互いに助け合い高め合おうとする事などや，健康・安全を確保することができる。

<授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。1. グループワーク（予習内容に関する確認）2. 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示）タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。3. ディスカッション（問題提示に対する回答）4. 省察活動（まとめ）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

<教科書>

特になし

<参考書>

財団法人日本ソフトボール協会
「ソフトボール指導者教本」
日本体育社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト
15	守備系実技到達度確認	試合形式でポジション別守備テスト

体育学部体育学科

科目コード	40104		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ハンドボール I (基礎)		担当者名	前田 誠一			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ハンドボールは、ヨーロッパで発展した、スピーディーでダイナミックなプレーが人気のボールゲームである。走・跳・投という基本的な運動要素がバランスよく含まれており、発達段階にある子供に対しても有用な教材として学習指導要領にも取り上げられている。本講義では、ハンドボールの基礎、専門的運動技能と実技指導能力を学習する。(1クラスの定員50名とする。)

<授業の到達目標>

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、ゲームを楽しむことができること、ボールゲームとしてのハンドボールの成り立ちに着目した上で、ゲームに必要な基礎的技術、戦術を身につける。

<授業の方法>

実技を通して、ハンドボールを学習し、随時その理論的背景を説明する。また、資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、レポート 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

笹倉清則 (2003)

「Tactics of Handball in The World」

財団法人日本ハンドボール協会

酒巻清治 (2012)

「基本が身につく ハンドボール 練習メニュー200」

池田書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の説明、ルール説明
2	攻撃の個人技術 (1)	ゲームに必要な個人の攻撃技術
3	攻撃の個人技術 (2)	シュートに着目した個人の攻撃技術
4	原始的ゲーム	基本的ルールの説明、少人数での速攻ゲーム
5	対人的技術・戦術 (1)	1対1状況における攻撃と防御の基礎スキル、少人数ゲーム (1)
6	対人的技術・戦術 (2)	1対1状況における攻撃と防御の応用スキル、少人数ゲーム (2)
7	グループ戦術 (1)	2対2状況における攻撃と防御の基礎スキル、ゲーム (1)
8	グループ戦術 (2)	2対2状況における攻撃と防御の応用スキル、ゲーム (2)
9	ゲーム (1)	ゲーム実施およびその運営
10	ゲーム (2)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (1)
11	ゲーム (3)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (2)
12	ゲーム (4)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (3)
13	ゲーム (5)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (4)
14	ゲーム (6)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (5)
15	ゲーム (7)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (6)

体育学部体育学科

科目コード	40202		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バレーボールⅡ(応用)		担当者名	坂本 博秋			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは集団のスポーツであり、集団による協力が重要である。球技種目履修の意義は、球技種目における個人技術の向上、技術、戦術の理解や、体カトレーニングの方法を学ぶだけでなく、この集団による協力の重要性を、ゲームを通して肌で感じることにある。また単に技術向上をねらいとするだけではなく、将来指導者、教員を目指すことを想定し、指導法についても講義する。なお、バレーボールⅡ(応用)は、バレーボールⅠ(基礎)を修得していることが履修の条件となる。

<授業の到達目標>

スパイク技術、レシーブ技術、ブロック技術、サーブ技術を向上させると同時にそれらを指導できる力を身につけることを目標とするとともに日本バレーボール協会公認コーチ1の受験資格取得を目指す。

<授業の方法>

日本バレーボール協会公認コーチ資格取得カリキュラムに沿って展開していく。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 40%、実技テスト及びレポート 60%

<教科書>

日本バレーボール協会(2017年2月10日版)
コーチングバレーボール(基礎編)

大修館書店

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	内容説明と導入	指導者資格について
2	指導者の在り方	指導者とは
3	バレーボールの歴史	バレーボールの生い立ちと現状の理解
4	競技規則と審判法(6/9)	競技規則の理解と審判トレーニング
5	ビーチバレーボールの指導法と競技規則(1)	技術理解と戦術について
6	ビーチバレーボールの指導法と競技規則(2)	練習方法と練習計画
7	グループディスカッション	コーチングについて
8	指導実習(基礎Ⅰ)と救急法(1)	基礎技術の指導(パス、アタック、ブロック)と救急法実習
9	指導実習(基礎Ⅰ)と救急法(2)	基礎技術の指導(サーブ、レセプション)と救急法実習
10	練習計画の立案	練習方法の理解と配分について
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	方法の理解と実践
12	初心者導入法(2/4/6/9)(1)	導入方法の理解と指導実習
13	初心者導入法(2/4/6/9)(2)	練習方法と指導実習
14	フォーメーション(基礎)	フォーメーションの理解と実践
15	実技試験とレポート	総合実技テスト及びレポート